

ニイガタストーリー第三話

晴子さんとホワイトの世界

晴子さんは、飽き性だ。陶芸にはじまり、水彩画、フラワーアレンジメント、パッチワークに、ヨガ、ジャズダンス、フラもやったし、社交ダンスも。楽器だって、ピアノに、三味線、オカリナなんてものにも挑戦した。いつも突然、「私これやってみようと思うの」とカルチャースクールのチラシを掲げて家族に宣言しては、「私の今までの人生は、この趣味に出会うためであつたんだわ」と夢中になって教室に通いだすものの、「なんか思ったのと違ったのよ」と、そのほとんどが1ヶ月もたずに足が遠のいてしまう。申し込みをしただけで満足して、結局通わなかったなんてこともある。

そんな晴子さんが

「私、乗馬をやろうと思うの」

そう夕食時に宣言したのは、半年前のことだった。なんでも晴子さんたちが住む見附市に新しく乗馬クラブがオープンし、早速近所の友達と体験乗馬に行ってみたところ、すっかり虜になったのだという。「70も超えて、何考えてるんだ」「どうせまた続かないよ」晴子さんの飽き性に何十年も付き合ってきた家族は一様にそんな反応を示したが、「今度は違うのよ、今度は」そうポツと呟いた晴子さんは、翌日からさっそく乗馬クラブに通いだした。

週一回かの午後に乗馬クラブに通っていた晴子さんが、いそいそと早朝に家を出るようになったのは、それから1ヶ月がたったころだった。さすがに何事かと問い質した夫の譲治に、インストラクターにもっと上手くなるために必要なものはないかと聞いたところ、馬とのコミュニケーション

だと言われ、それならばと頼み込んで、馬房の掃除や餌やり、馬体の手入れといった、朝の馬の世話をやらせてもらっているのだと答えた。それからまた2ヶ月がたった。あいかわらず晴子さんは、1日も欠かさずことなく早朝から乗馬クラブに通っていた。その日、同居している娘の裕美が風呂上がり小学生の長女の髪をとかしながら何気なく尋ねた。

「ねえ、お母さん。なんで乗馬はそんなに続けているの？」

晴子さんは、戸棚に飾ってある体験乗馬の時に撮られた写真を見ながら呟いた。「やっぱり、ホワイトがいるからかな」

「ホワイト？」

「うん。昔ね、たまたまつけたテレビの競馬中継でくすんだ灰色のみすばらしい馬が走っていたのよ。後ろの方を。別に競馬が好きでもなかったし、いつもなら気にもならないんだけど、ちょうどそのころ、あんたたちも家を出た頃で、急に誰にも必要にされなくなったような気がして、なんか誰にも注目されないそのみすばらしい馬と重なっちゃってさ。覚えてたの」

「それがね。再会したのよ。体験乗馬で。ホワイト」

「あの灰色の馬？」

「そう。ところがね、ホワイトは綺麗な白馬になつてたの」

「馬って、色が変わるんだ？」

「昔毛って言うんだけど、生まれた頃は他の馬と変わらない色なんだけど、歳を重ねるうちに、

じよよに白くなっていく種類の毛色なのよ」

「へえ」

「しかもね、ホワイトは、正直、競走馬としては失格になった馬なの。でもね、第二の馬生を乗馬の馬として大活躍しちゃってるのよ」

「そうなんだ」

「ジャンプする姿なんかすこくかっこいいんだから」

「すこいね」

「だからね・・・ホワイトと一緒に乗馬をしていたら、私も歳をとってもどどん輝けるような気がしたの。なんか大げさな言い方だけど、私の小さな世界を変えられるような気がしたのよ」

そこまで聞いた裕美は、長女の髪をとかす手を止めると、晴子さんに向き直って、こう言った。「お母さん。なんかすこいいい。すこいいいよ。私、応援する」

そして、今日。晴子さんはこの日のために新調した競技会用のウェアに身を包んで、ホワイトと一緒に馬場入り口のゲートで順番を待っている。すつかり乗馬中心の生活を送っていた晴子さんにインストラクターが、もつと上手くなるためには明確な目標があつた方がいいとアマチュアの大会への参加を勧めたのだ。人生で初めて試合というものに出場する晴子さんは今にも飛び出しそうな心臓を奥に引っ込めようと、大きな深呼吸を繰り返していた。そんな晴子さんに、ゲートの外に駆けつけた応援団が声をかけた。

「ばあば、がんばって」

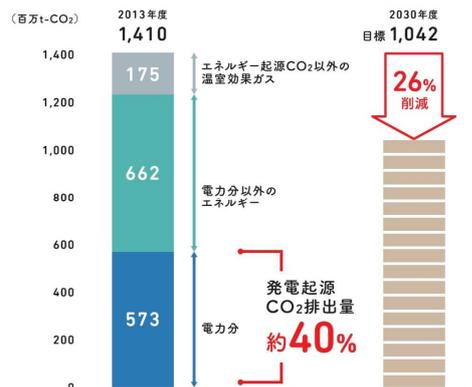
「お母さん、試合の目標は？」

「目標は、ホワイトと楽しく一周回ってくるのよ」

「ぎこちない笑顔を向ける晴子さんのかたわらで、任せておけると、美しい白馬が嘶いた。」

登場する人物・団体・名称等は架空のものです。

日本の温室効果ガス排出量の内訳と削減目標



出典:経済産業省資源エネルギー庁「日本のエネルギー2019」を基に作成

同じ目標の話でも、こんな元気をもらえる話ならいいのですが、今、日本が取り組まなければならない大事な目標の話があるんです。それは、温室効果ガス削減目標の話。近年、世界的な問題になっている地球温暖化の対策として、世界中の国々がCO₂(二酸化炭素)など温室効果ガスの削減目標を掲げているのはご存知でしょうか?日本の目標は、2030年度までに2013年と比べて26%の削減を達成するということです。その中で注目されているのが、日本の排出量の約40%を占める発電時に出るCO₂。この部分は、現在、日本の電力の約80%を石油や石炭などが燃料の火力発電に頼っているため、思うようにCO₂の削減が進んでいないのです。

私たち東京電力は、この課題に対し、風力発電など再生可能エネルギーの主力電源化を目指すとともに、安全を大前提にした原子力発電の活用などバランスのよいエネルギーミックスを推進することで、CO₂の排出削減を目指しています。

みなさまの、かけがえのない、その毎日のために。